

## 西宮市医師会看護専門学校 令和5年度 自己評価および学校関係者評価結果

### ○自己評価および学校関係者評価の経緯と概要

2003年に看護師等養成所の教育活動に関する自己評価指針が示され、本校においても教育の質向上に向け、2004年度より自己点検・自己評価委員会を立ち上げ、厚生労働省の自己評価指針<sup>1)</sup>をもとに自己点検・自己評価への取り組みをはじめました。

指針をもとに約10年自己評価活動に取り組んできた結果、授業運営にかかわる教育課程経営や教授学習評価過程に関する評価は、ほぼすべての項目が高い評価となっています。しかし、国際交流、研究に関して評価点は低いままで経過していました。そこで、本校の厚生労働省の自己評価指針をそのまま使用することが本校の教育理念に合致しているのかを含め、本校の自己点検・自己評価のありかたについて改めて見直し、自己点検・自己評価委員会において本校の教育理念を基本に、厚生労働省の自己評価指針<sup>1)</sup>、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」<sup>2)</sup>も参考にしながら、本校の自己点検・自己評価指針を作成しました。

本校は西宮市医師会定款に示す医療技術者の養成に関する事業を受けて運営されており、地域に密着した看護サービスが提供できる看護の実践者を育成することにあると教育理念にあげおり、教員の研究活動より学生の教育活動に重点がおかれるのは当然であると考え、これまで、一つの Kategorie として取り扱っていた Kategorie IX「研究」については、教育活動の充実に関する下位項目ととらえ、評価 Kategorie を整理しました。その結果、2015年度より評価指針を6 Kategorie に整理し、Categoryごと下位項目、評価内容を作成し、評価しています。令和元年度には自己点検・自己評価委員会を自己評価委員会と改称し、あらたに学校関係者評価委員会も立ち上げ評価を行いましたので、2023年度自己評価結果および学校関係者評価について報告します。

#### 1) 厚生労働省

「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」報告書

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/07/s0725-5.html> 2020年3月アクセス可能

#### 2) 文部科学省

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく学校評価マニュアル

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/senshuu/1332632.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.html) 2020年3月アクセス可能

## 学校関係者評価

西宮市医師会看護専門学校は、令和6年5月16日に「2023（令和5）年度」の自己評価結果報告書」をもとに、学校関係者評価を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

令和6年5月20日

西宮市医師会看護専門学校

### 学校関係者評価委員

- 1) 臨地実習施設関係者 依藤 泰子
- 2) 元教職員 井上 晃一
- 3) 卒業生 前 佳美
- 4) 講師 嵩原 英喜

### 【評価カテゴリーごとの学校関係者評価・意見】

I 教育理念・教育目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・自己評価点が「3」であり、適切運用されている。</li><li>3つのポリシーとアセスメントポリシーを含め全体として充実した評価計画を策定している。</li></ul>
II 教育活動	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員の研究活動の保証について自己評価が低い傾向にある。仕事量の増加から研究活動時間の確保が厳しい状況にあることは理解できる。働き方改革が推進される中、この課題を解決することは容易でないと考える。教員数増加は人件費増加に繋がり経営面での課題に繋がる。</li><li>・教員の繁忙さの要因の一つとして補習実習があがっていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため看護学生の実習受け入れには制限がかかっていたことも影響していると考えられる。令和6年度より感染対策がさらに緩和されているので、補習実習は減少すると予測できる。臨床現場の実情としては人員不足もあり、看護師が疲弊している。業務遂行が精いっぱい実習生に対する指導が十分ではないこともある。しかし、認定看護師等の講師派遣には協力ができる。教員の負担軽減のためにも活用して貰いたい。</li><li>・複数科目で単位未修得の学生が8名いる。入学生の学力低下、学習習慣の確立ができていない等の背景がある。定員確保と質の担保という困難な課題であるが、専門学校ならではの特徴をPRして欲しい。</li></ul>
III 経営・管理過程	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校経営・運営は適切にできているが、少子化に拍車がかかる中、80名定員を確保できるか課題でもある。建物の老朽化による修繕費等の支出も見込みながら長期的な試算もしており経営の安定に向けて努力しているようすが窺える。</li><li>・看護師養成所のDX化において学習支援システムを整えば、講義資料や課題提出に関して担当講師と学生間でのやり取りで完結でき、カテゴリーIIの教員の負担軽減につながる。</li></ul>

IV 入学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験における出願数が前年度比 30%減となった要因としては、近隣府県の看護系大学への流出があるのではないかと懸念されている。定員確保のためには専門学校へのPRを強化し、社会人を増やすのも1つの案である。進学ガイダンスは、機会があれば大阪へも出向き学校広報の範囲を広げる等検討して欲しい。</li> <li>・少子化による応募者数減少の中で定員数を確保しようと思えば、学生の質を保つことが大きな課題となる。</li> </ul>
V 卒業・就業・進学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率 100%は評価できる。今、看護師の就業先として急性期病院が選ばれなくなっている。中途採用の求人でも応募者が少ない傾向にある。臨床現場でも看護師の質は確保したいが人員確保も重要である。看護師国家試験合格を学力の最低レベルにとらえ、入職後の教育内容や方法を吟味していく必要性を感じている。</li> </ul>
VI 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが収束すると社会活動が活発になるので、ボランティア活動も増えるであろう。積極的に参加して欲しい。</li> </ul>

### 【総括】

教職員が看護師養成に努めている様子は非常に理解できる。今後も学生が看護師をめざしていることを真摯に受け止めながら教育をしていただきたい。しかし、教員の働き方改革についても理解できる。自己評価では、研究に関する項目の評価点が低いが、学習支援システム等を整備しWEB化していくことで業務の負担軽減に繋がると考える。

看護師の先輩としての意見であるが、新人看護師の早期離職理由にパニック障害や学習障害等があると推察している。そのような状況にある新人にスタッフは歩み寄っていない現状もある。しかし、学生時代に合理的配慮を受けながら看護師をめざす学生がいるのであれば、支援できることを考えながら協力したい。

将来的な経営面を考えると定員数の確保は必要である。地の利と専門学校のプラス面を活かして頑張りたい。

# 令和5年度 自己評価

## カテゴリごとの自己評価概要

<p>I 教育理念・教育目標</p>	<p>医師会立として地域保健医療の向上を図るため、『地域に暮らす人々の健康や状況に応じて看護が実践できる人材を育成する』という理念のもと、教育目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを策定し、教育内容を抽出し特徴を明確にした。また、教育目標やディプロマポリシーの到達度については、各学年終了時にアンケート調査し学生の自己評価を確認するとともに学校自己評価の資料としている。卒業時の行動特性に対する自己評価アンケートの結果では概ね達成していることが確認できた。</p>
<p>II 教育活動</p>	<p>カリキュラムについては、教育課程編成の考え方と具体的な構成に基づき運営し、学生へは学生便覧と履修の手引きを配布し入学時及び各学年の前・後期ガイダンスで説明している。令和5年度は新カリキュラム運用2年目となり、教育理念・教育目的・ディプロマポリシーが浸透し、教育理念にある「地域に暮らす人々」の理解につながるが運用できていると評価する。実習においても今年度は新型コロナウイルス感染症の影響も少なく、臨地での実習を行うことができた。また、令和6年1月より新カリキュラムでの専門領域実習がスタートしたが、実習運営に問題なく進めることができた。講義・実習の評価においてもあらかじめ評価計画を提示し、学習内容に応じた評価方法で公平に行われている。</p> <p>講義においては、到達目標から教育内容・方法を精選する逆向き設計も一部取り入れている。またルーブリック評価を活用し講義・実習における学生の主体性を引き出す工夫をしている。さらに講義ごとにリアクションペーパーを用い、学生の理解度などを確認しながら講義をすすめている。このように、教員は研究的に講義を進めているが、自己評価として研究活動に対する評価が低い傾向にある。</p> <p>学生指導については、1年生で複数科目の未修得者が8名いることなどからも、生活指導を含めた関りに時間を要していることが伺える。基本的にはまじめな学生がほとんどだが、学習面だけでなく、看護職者を養成するための基本的な生活、学習習慣への指導も絶やさず実施している状況であり、教員はカリキュラム運営上、学生への個別的な指導がさらに求められている。</p> <p>業務改善として取り組んだことは、令和5年度より始業時午前9時に業務調整の時間を設け、学校・学生の動きの共有から時間管理、人員配置などを行った。しかし、学生の生活指導、相談、学習支援、無断欠席の学生への連絡、補習実習の調整等に時間を要し、就業時間内に講義準備の時間確保ができないと思っている教員が少なくない。授業評価分析等の時間確保とともに業務改善が必要と考える。</p>

Ⅲ 経営・  
管理過程

意思決定システムとして運営会議（医師会）・運営会議（学校）・教員会議が明示されており、日常のミーティングと諸会議で全職員の意思決定や情報共有を行っている。令和6年度は4月より義務化される障害者差別解消法による合理的配慮についてとハラスメント防止に向けた本校の指針作成を行う予定である。

学生への経済的な支援については、日本学生支援機構、市内医療機関の奨学金説明会を実施して希望者の便宜を図っている。また継続して専門実践教育訓練の指定校となっている。令和5年度の高等教育無償化による授業料等減免補助事業による対象者は、31名。日本学生支援機構奨学金も利用しており、貸与学生は令和4年度より20%増加している。給付・貸与奨学金のおかげもあり、授業料等はほぼ全員が期限内に納められた。

学生への学習支援については、令和5年度に図書システムのクラウド化を実施すると同時にWEB上での図書検索機能を追加した。図書室利用が増えることを期待する。令和6年度は看護師養成所におけるDX化推進に対応できるように情報収集し、学習支援システム、学生との連絡、出席管理等のシステム導入を検討したい。新型コロナウイルス感染症は5類に移行し、臨地実習はほぼ計画通りに実施できたが、「教育用電子カルテ」の契約は更新し、授業でも活用できるようにしている。備品としては、校内実習用車椅子2台、新生児バイタルサインシミュレーター1体、授業用ノートパソコン2台を購入した。

教員の自己研鑽支援として学習支援システム「Nursing Education Online (NEO)」契約を継続している。

施設設備として、令和5年度も給排水管からの漏水があり、その都度修理し学生への影響は最小限に留めているが、頻度は多い。令和6年度は全面的な修理に約35,800,000円予算計上している。

危機管理として、令和6年度は災害時用の備蓄を整備予定である。また看護専門学校、医療連盟、医療信用組合、ハローワーク、応急診療所が同一敷地内の建物であるため統括防火管理を行う必要があり、令和6年度より合同防災訓練等を開催する予定である。

<p>IV 入学</p>	<p>入学選考に関する規程を定め、入学者選抜を公正に実施している。入学試験委員会において過去の入学状況を参照し、選抜方法について検討している。例年どおり校内でのオープンキャンパス、学校説明会の実施及び高等学校等で開催の進学相談会に参加した。令和5年度入学試験より、推薦入試の受験科目を国語総合1科目へ、社会人入試の受験科目を国語1科目へ変更した。加えて令和6年度入学試験より、一般入試2次の受験科目を国語総合のみと試験日程を2日から1日にした。</p> <p>令和6年度入学試験結果としては、出願数は一般入試2次を除いて、昨年度より約30%減少した。18歳年齢人口の減少は続くため、今後も学生確保対策を検討する必要がある。</p>
<p>V 卒業・ 就業・進学</p>	<p>進路指導を実施し、概ね適切な進路選択ができています。卒業時に教育目標に沿ったアンケートを行い概ね到達目標は達成されている。卒業時の就職状況調査で就職、進学について把握し次年度の就職指導に役立てている。令和元年度就職病院に聞き取り調査を実施し、本校卒業生の成長と課題を明確にし、教育内容の検討に活用した。令和2年以後、新型コロナウイルス感染症による影響があり、臨地実習指導時や実習指導者会議、新卒採用で本校を訪問される医療機関より卒業生の様子を情報収集するのみになっている。</p>
<p>VI 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>学校行事である学校祭は地域の人々と交流する機会であったが、令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症のため学校祭は中止した。令和4年・5年度は、学生と教職員のみで開催した。</p> <p>ボランティア活動については、近畿ブロックDMAT訓練に傷病者役として参加した。また、令和4年度新カリキュラムより新設科目「地域の特徴と人々の暮らし」において、フィールドワークを行い地域の特徴をまとめ発表している。令和5年度は、当該科目の課題として1年生全員が西宮市社会福祉協議会のボランティア活動に参加した。この科目を通して西宮市の歴史や特徴についての理解はでき、フィールドワークやボランティア活動時に地域の人々とコミュニケーションを図ることができた。昨年度よりは、地域への貢献と本校の認知度は高まったと考える。実習施設や近隣施設からのボランティア要請にも対応していきたい。</p> <p>高校進学ガイダンスには、年間37回参加し、進路相談を実施したが、コロナ禍以降は依頼件数も減少傾向にある。本校での学校説明会、オープンキャンパスについては、昨年度より参加者数の制限を緩和し感染予防に留意して行った。参加者数は、昨年度より1割程度まで増加した。</p>

# 令和5年度自己評価結果

--- R4    — R5

